**ヨルダン川を渡って 2016 年10月2日**

**ヨシュア1:1-2 カール ジマーマン牧師**

ずうずうしい推測かもしれませんが、もし皆さんが私がこの教会から去ることを悲しむのなら、30日間だけにしてください。　なぜそうなのか、説明します。

何千年も前のこと、モーセは奴隷だったイスラエルの民を40年もかかって、荒野の地を通って、解放へと導きました。彼等は約束の地を探しました。ゆっくりではありましたが、ある日モーセが神の掟を守れない事態になってしまうまで、約束の地へ着実に進みました。　モーセには、もう乳と蜜にあふれる約束の地に入る特権は無くなってしまったと告げられます。　たしかにその通りになりました。　その約束の地を眼前にして、モーセは死にました。

出エジプト記を最初から最後まで読むならば、モーセと民の間には、緊迫した関係があったことがわかります。　イスラエルの民は、しばしば、忠実ではなく、頑固で鈍感だったため、モーセは民に対してイライラし、規律を励行するように要求しました。　しかし、いざモーセが亡くなると、人々はいかに偉大なるリーダの後をついてきたかがわかって、悲しみにふけ、いつくしみと暖かな心でモーセを誇りに思うようになりました。　申命記の最終章には、次のような言葉が見つかります。「イスラエルの民は慣例の30日間が過ぎるまで、モアブの大地で、モーセを思い、喪に服しました。」

次週の日曜日は、私がみなさんの牧師である期間の最終日となります。　みなさんの中には、「家族の死」を体験するように思う方がいるかもしれません。しかし、そんな風に思うなら、御言葉に従って、30日間だけにしてください。

そして、30日後からは、注意・エネルギーを、インテリムの牧師に、そしていずれ招聘することになる、フルタイムの牧師に、 向けるようにしてください。

その流れを聖書に照らし、ヨシュアのストーリーを、皆さんが思い出していただきたいのです。　 モーセの死後、神は、リーダーの責任をとることにあまり乗り気ではなく、しかもモーセのしてきたことなどできるはずがないと思っていたヨシュアに託しました。　また、イスラエルの民も、ヨシュアが約束の地へ、自分たちを導いてくれるということは、わかりませんでした。

質問・疑問があったにもかかわらず、指導者交代は風が吹き込むようにやってきてしまい、私たちだって、それは乱れた指導者交代であるとわかるのです。ユーモアのある、マークトゥエインは、「変化を願うのは、おむつを換えて欲しい赤ちゃんだけだ。」と書いています。

好むか好まざるかにかかわらず、変化はこの教会にやってきます。　ある人は否定するし、ある人は抵抗するでしょう。　しかし、良い考え方というのは、変化を認め、それが神の計画であるとして受け取ることだとおもいます。　そして、ヨシュアの話のなかには、私たちに役立ち、変化の中に祝福があることを私たちに気がつかせる話があるのだと思います。

神が新しく任命したリーダに語った言葉は何だったでしょうか？「私の仕え人だったモーセはもう亡くなった。ヨシュアよ、あなたと民はヨルダン川を渡り、いま私があなた方に与えようとしている土地へと入って行く。」

決して聖書の言葉にそのまま書かれていわけではなく、それは少々危険であり無責任なことと思われてしまうかもしれませんが、私は神はモーセとそっくりなリーダとしてヨシュアを選んでいるわけではないと思います。モーセにはモーセのやり方があったし、ヨシュアにはヨシュアのやり方があった。 モーセには民との関わり方があったし、ヨシュアはモーセのそれとは異なる民との関わり方を造り上げていくのだと思います。

皆さんの思いを表していただくのは私にとってありがたいことですが、だれかが、「わたしたちの新しいパスターは決してパスターカールと同じような人ではない。」と言うなら、私は「それは100パーセント正しく、神に感謝しなさい。」と申し上げたい。　たしかに、世界中には、私とまったく同じような人がいる可能性はありますが、だからといって、どうやって見つけ出せるのでしょう？

イスラエルの民がモーセに感服、尊敬したように、ヨシュアにも、また異なる賜物がありました。　同じように、皆さんの新しいリーダーにも異なる賜物があります。　彼か彼女は、私がしてきた事とまったく同じことはしないでしょう。そして、あなた方はその幸運に感謝すべきなのだと思います。　新しいミニストリーのスタイルは、新鮮な呼吸のようなもので、だから、その息を深く吸い込み、新しくされて、新たなエネルギーが与えられるようにして欲しいのです。

そして、以下のようなことをぜひ覚えておいて欲しいのです。　たとえどんな牧師がどのようなやり方をしたとしても、神の伝道の核は、変わらないということを。　たとえモーセが死んでも、約束の地に行くという夢がモーセとともに死んだわけではありませんでした。　モーセの体が冷たくなってしまう前に、神は ヨシュアに語りました。「ヨルダン川を渡って、今、私が与えようとしている土地に入っていくように準備せよ。」　新しいリーダーは、まったく同じミッションを引き継ぎました。

私が皆さんと別れても、復活教会の 「キリストを分かち、生き様を築こう(Sharing Christ and Shaping Lives)」というミッションの根幹は続きます。それは、異なった形で現れるかもしれませんが、コミュニティの人々を歓迎し、キリストの思い・力によって、生き様は形成されていきます。　それは、Energizer Bunny(電池仕掛けの太鼓をたたきつづけるウサギ)がいつまでもいつまでもいつまでもエネルギッシュに活動を続けるように。

ある人はこんな風に描写していました。「リーダが代わっても、神の約束は変わらない。　リーダが代わっても、神のゴールは確かな硬い岩のように、存在しつづける。　リーダが代わっても、神のパワー・力は変わらずに永続する。」

ここまでの話は、わたしはリーダーの役割について焦点をあてて話してきましが、モーセもヨシュアも、そして まともな牧師であれば、どんな偉大な夢も、人々の協力、支援、犠牲、そして苦役無しには、実現しえないことを知っています。

リーダはどういう道筋を歩むかは描くかもしれませんが、 献身的な従者たちが、船を帆走させていきます。文化人類学者のマーガレットミードは、「世界はしばしば変化するが、歴史の大変動で変化するのではなく、ごく少数の思慮深い、関心をいだいた、ひたむきな市民たち、変化への犠牲を被り、その対価を惜しまずに払う人々によって、変化していく。」と言いました。

アメリカ合衆国の独立の時代の最初は、わずか三分の一の市民しか、すべての民への自由と正義に、賛同できていなかったとされています。　しかし、その三分の一の人々が、当時のリーダたちの激励とともに、多くの人々が実現しえないと思った自由と正義を、見事に勝ち取ったのです。

神の御国において、いつもそのようなことが起こっているのでしょう。　キリスト教の歴史を振り返ってください。　それは世界の潮流となり、成功へと導かれるのに、ほんの少数の、 決心の固い、献身的な人々の集団が、必要なことを行い、他者に、イエスこそ道であり、真理であり、そして命であると、確信させていったのです。　それは、この復活ルーテル教会においても、そうあり続けるのです。

皆さんの新しい牧師は、並はずれた才能と賜物を持っていることでしょう。彼あるいは彼女は、驚くべき指導力を持ちつつ、伝道のために重荷・苦役を担い、そして、22年にわたり皆さんの献身ぶりを見てきたわたしには、皆さんが犠牲を払って神の使命を遂行していくことがわかります。

復活ルーテル教会にとって、約束の地は、今や水平線の少し向こうに見えてきています。それに向かって、活力と熱意をいだいて進んでください。決して疲れたり弱がらないようにしてください。イスラエルの民がヨシュアという新しいリーダーのによりその目的を続行したように、ぜひ、乳と蜜にあふれる新天地にむかって、川を渡る喜びを覚えてください。アーメン。　日本語訳：安達均